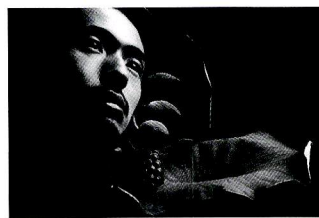


写真の花が「フレンチチューリップ」。彼を「花結い師」へと導いた運命の花だ。色は、淡くやわらかなサーモンピンク。この写真は、HPのプロフィール紹介に使われていることから、思い入れの強さが知れる



顔や着物、ドレスに合わせてファッションとしての花結いを提案してくれる。ウェディングのヘッドドレスは、花やデザインによって異なるが1スタイル5万円〜。斬新なデザインは絶大な支持あり



花という存在をもっと身近に感じてほしくて、女性だけでなく男性にも花結いを行う。花結いをされた男性は、花への見方が変わるといふ不思議な力がある

フラワーアーティスト 花結い師

# TAKAYA

京 KYOTIAN I.D.  
京のおきばりさん

取材・文/山田涼子 撮影/石川奈都子

【プロフィール】滋賀県出身。ケーキショップ、フレンチレストランで修業を重ね、24歳のときにカフェをオープン。その後、花好きが高じて、04年に「Flower Designer TAKAYA」を設立し、様々なイベント等でパフォーマンスを披露。08年よりウェディングでのヘッドドレスの提案をはじめ、09年から本格的に始動する。現在、京都の名刹でのイベントを企画中。

## 花の美しさを伝えていきたい だから髪に花を結い続ける。

女性の頭部をまるで花器に花を活けるかの如く、花を結う。ときに豪快に、ときに繊細に。花を「飾る」のではなく、花を「結う」。TAKAYAさんがつくり出す花のヘッドドレスは、「花と花器」という関係よりも遙かに一体感を持っているような気になる。圧倒的に美しい。それは「生き物×生き物」の組み合わせだからなのか…。

花に魅せられたのは、中学生のころ。写真で見かけたフレンチチューリップを目を奪われ、実物が見たくて探し歩いた。当時はまだ珍しく、大阪でやっと出会ったときには、探し回った時点で既に、とり憑かれていたということ。

「暗い部屋でも、花が一輪あるだけで心が和む。花の力つてすごい」とTAKAYAさん。花が好きになった少年は、花が好きのまま大人になった。あるときふと、女の人から花が生まれ出ているイメージが湧いた。湧き出たイメージはどんどん膨らみ、居てもたってもいられず、作品づくりをはじめた。「とにかく、女性の髪を花で結ってみよう」。そして、ファッションとしての花を追求する。もともと写真撮影が好きだったこともあり、ただの記録ではなく、作品として撮影も手がける。モデルはほぼ知人で、プロではない。竹林に入り込み、現場で着物を着付けることもあるし、山からたぐさんの落ち葉を拾ってきてスタジオリックに敷き詰めたこともある。フードク

リエイションとのコラボイベントでは、「食べられる葉っぱと、観賞する葉っぱ」というテーマで、トレビス（チコリの一種）をモチーフにしたパフォーマンスを行った。

その数々の作品が口コミで広がり、ウェディングのヘッドドレスの依頼が来るようになる。その人だけの美しさを引き出すため、ドレスや着物に合わせて、総合的なスタイルを提案する。TAKAYAさんが使う花は、生花。ウェディングでは綺麗に開花した花を必要とされる。ゆえに、時間との勝負になることが多い。スタイリングをしたときには蕾だった花が、披露宴の入場時に合わせて開くことも計算する。その姿のまま二次会に行きたいと言われれば、それに相応しい花をセレクトする。マリアペールでもなく、ティアラでもなく、花。それは、フラワーアーティストならではの視点。とはいえず、ホテルでのウェディング業界ですんなり入り込めないこともある。彼がテレビや雑誌のメディアに積極的に露出するのは、すべては、「花結い師」という存在を知ってもらったため。そして、望んでくれる新婦のためだ。素敵な花嫁を夢見る乙女たち、またそんな彼女たちを愛する男性諸君よ、特別な日だからこそ、幼きころ、可憐な花を摘んで髪飾りにしたときのあのワクワクする気持ちを胸にバージンロードを歩いてみてはどうだろう。

### information

「花結い師 TAKAYA」

京都市東山区東大路通古門前下ル松原町294

☎075・585・8901

http://takaya-nanayuishu.jp/